



天文資料

2020年 3月号

令和元年度 第12号 (3月号)

令和2年2月26日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館

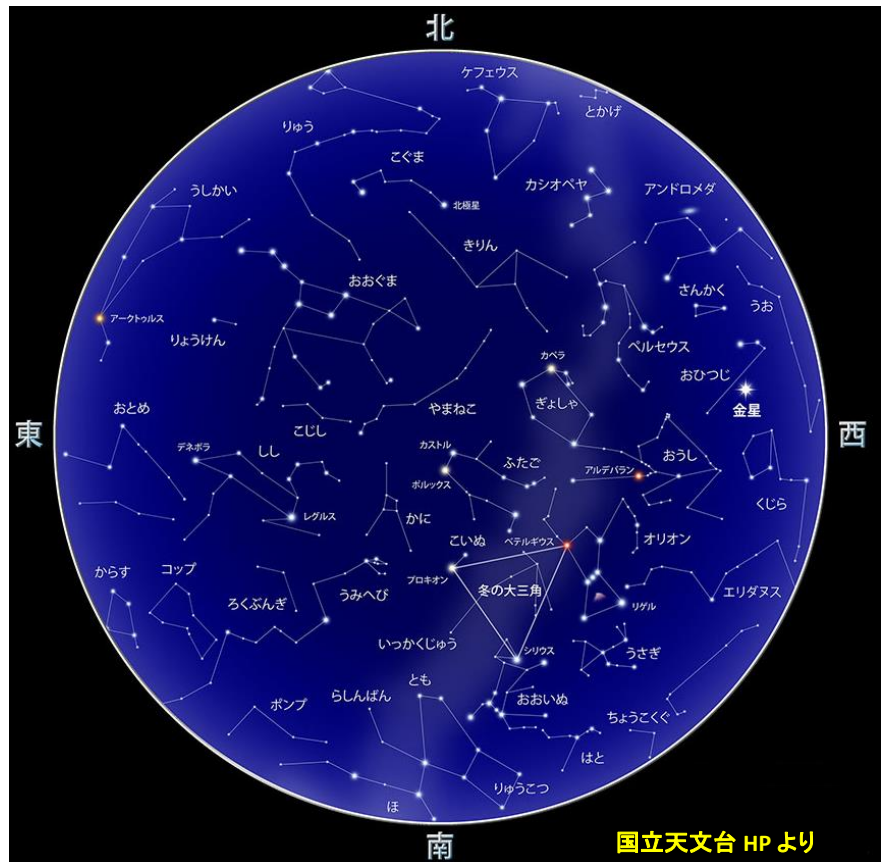


<春の星座が続々と…しかし、冬の星座も存在感が…>

長崎県の桜開花予想が3月23日と発表されました。

昨年より3日遅い予想で、このことから今年の冬は冷え込む日が少なかったことがうかがえます。(強い冷え込みが開花を早めるといわれています。)

3月の星空には、おおぐま座やしし座といった春の星座が昇ってきますが、まだ天頂から西空にかけて華やかな冬の星座が陣取っています。明るい星が多いので、どうしても目がそちらに向いてしまいます。加えて西空には、宵の明星・金星も輝いていますので、さらに春の星座には分が悪いように感じます。



国立天文台 HP より

そのような3月の星空ですが、ここではおおぐま座、しし座、

かに座をご紹介します。(上の星図をひっくり返せば説明がわかりやすくなります。)

★おおぐま座：北極星の右上の方で、北斗七星を探してください。これがおおぐまの腰からしっぽにかけての部分になります。腰の部分の4つの星からさらに上の方にある星々をつなぐと、さかさまになって歩く大きなくまの姿が現れます。

★しし座：東から天頂にかけて目を移していくと、あまり明るくない一等星レグルスと、それを含む「？」を裏返しにしたような星並びを見つけることができます。これは、「ししの大鎌」と呼ばれ、しし座の頭と前足に当たる部分です。この左側に胴と後足に当たる三角形があります。空に駆け上がるライオンの姿を想像してください。

★かに座：ふたご座の一等星ポルクスと、こいぬ座の一等星プロキオン、しし座の一等星レグルスを結んだ三角形の中央にぼんやりした光の集まりが見えます。ここが、かに座の中心部にあるプレセペ星団です。かに座は暗い星が多いので、かにの姿をイメージするのは難しいでしょう。

<りゅうこつ座カノープス(南極老人星)を探してみましょう>

オリオン座リゲル、おおいぬ座シリウスのずっと南の方に、カノープスという一等星があります。シリウスに次ぐ全天2位の明るさを持つ恒星ですが、とても低いのでなかなか見ることができません。中国では南極老人星と呼ばれ、この星を見れば長生きできるといわれていますので、ぜひ探してみてください。(夜7時頃、3月20日くらいまでです。)

